



できることからコツコツと

須賀新田地区は平塚市の一部ですが、JR平塚駅周辺や北部住宅地や農業地域、北西部丘陵地とは相模川を隔てた“飛び地”であり、隣接地は茅ヶ崎市になります。昭和50年頃から農地が徐々に宅地化され、現在288世帯611人が暮らす住宅地となり、そのうちの約1/8が70歳以上の高齢者です。

最寄りのバス停までは約1kmあり、いわゆる「交通の空白地帯」となっています。にも関わらず地区内に商店はなく、食料品や日用品でさえも1km先のスーパーに出かけなければなりません。

近年高齢化が進み、地域からはサロンの開催やコミュニティバス運行の要望もあり、地域でそれらの課題を解決するために「介護予防と日常生活支援事業」を法的な拠り所として平成30年に地域自治会とは独立した「須賀新田シニアクラブ」を設立しました。現在の活動内容は移送支援を主体としてサロン、ゲートボールやウォーキングの開催を行っています。

移送支援については買い物(往復)、通院(往路のみ)を行なっています。買い物は週1回の定例日に乗り合いで既定の近隣

スーパーや、別のスーパーへの要望にも応じています。

通院は事前の予約制で、JR茅ヶ崎駅から平塚市西部の平塚市民病院までの範囲で往路のみで対応しています。

直近の月平均配車は、買い物が延べ6台、通院が延べ8台となっていますが特に通院に関しては予約が増加する傾向にあります。

昨年から続くコロナ禍の中、ひとたび活動を休止してしまうと再開するために多くの障害が立ちだかかってしまうと考え、手指消毒、車内の消毒、マスクの着用、社内換気などの感染防止策をして休むことなく活動を続けてきました。私たちのクラブの理念、「人と人のつながりの中、人に親切にする喜びと親切を受ける幸せにより支え合う地域社会を目指す」のもとに活動を続けています。



●基本情報

項目	内容
地区名	須賀新田地区
実施主体	須賀新田シニアクラブ
開始時期	平成30年(2018年)12月
利用対象者	須賀新田シニアクラブ会員で65歳以上の移送支援登録者
利用者数	4世帯6名(60歳~90歳代)、うち女性4名
車両台数	自家用車(軽自動車:4台)
自動車保険等	車両所有者の負担(万一の事故時には保険料の次年度以降の保険料割増分を平塚市が負担する制度を利用) 乗車時以外の利用者についてはボランティア保険に加入
運転者数/主な運転者層	4名(60歳~70歳代の平塚市の安全運転講習会修了者)
送迎に係る利用者負担	ガソリン代相当
予算規模	約20万円
今後の課題	・買い物、通院、選挙投票、災害時避難等以外にもニーズはあるが、安全を第一としてどこまで拡充するかを検討中 ・数年後の運転者の確保

●利用者と支援関係スタッフの声



Kさん(利用者・90歳代女性)
私は週1回の買い物と月1~2回の通院に利用しています。このクラブに感謝しています。



Yさん(利用者・70歳代女性)
身体が不自由なので、家の内外も杖なしでは生活できません。買い物、通院等で皆さまに助けてもらっています。



藤嶋さん(須賀新田シニアクラブ会長)
運転者の皆さんへの感謝と利用者の笑顔に幸せを感じます。この活動が各地区で実施されることを祈念いたします。



住吉さん(移送支援リーダー・自治会長)
車がないと買物にも通院にも不便な立地の中で自転車も徒歩も困難な高齢者の移送支援を行っています。



川野さん(移送支援者)
主婦である私は移送支援中、料理の話をしたり、一緒に買物をしています。